

セッション1

# 火山噴火予測研究と 噴火警戒レベル

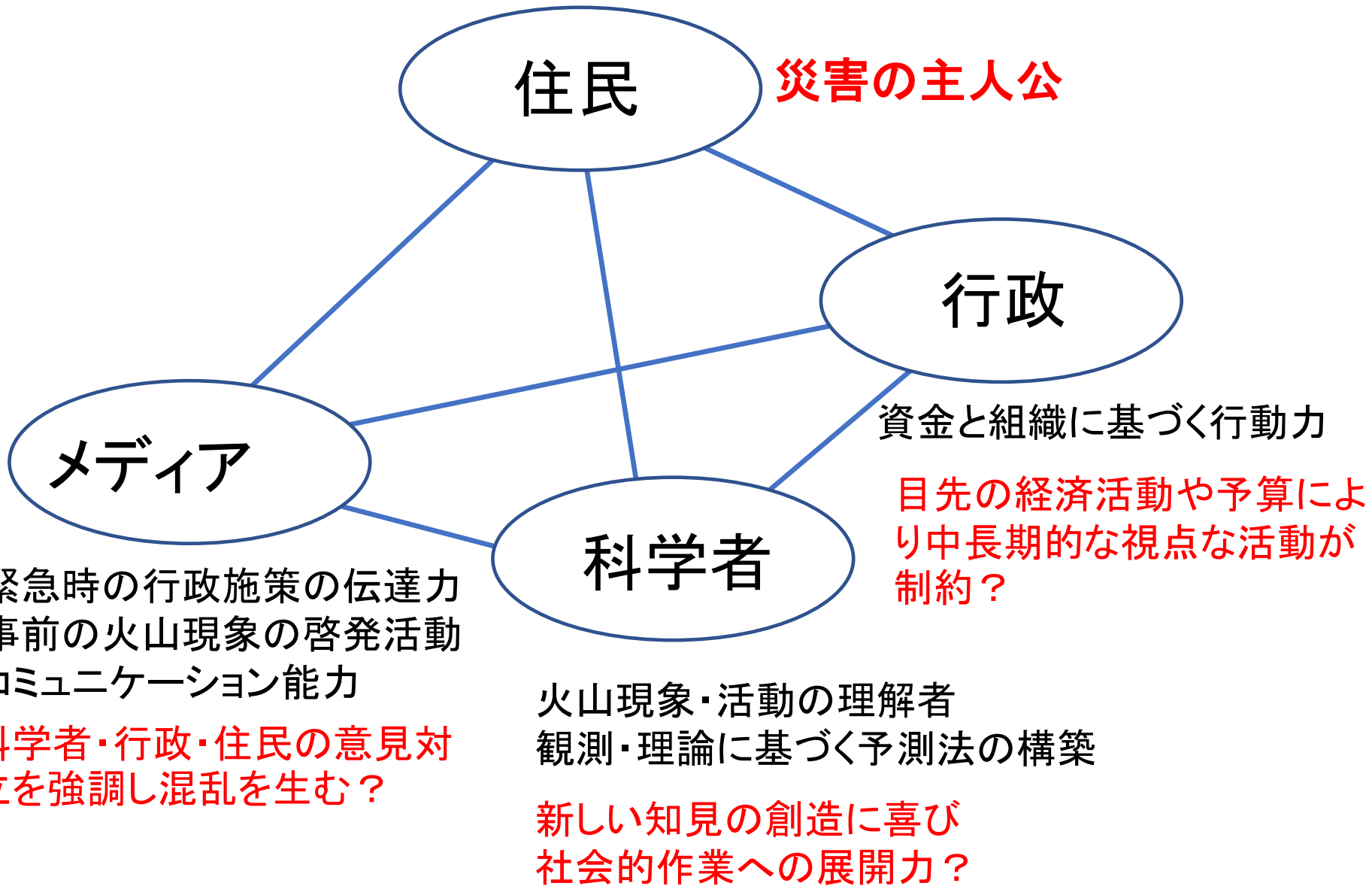
## イントロダクション

西村太志

東北大学大学院理学研究科

人材育成コンソーシアム実施責任者

# 減災の正四面体 岡田・宇井(1997)



火山の噴火予測研究がどのように行われ、  
その成果がどう活用されているか？

火山噴火予測研究の取り組みや研究成果

「噴火警戒レベル」と密接な関係

# 噴火警戒レベルとは

火山活動の状況に応じて  
「警戒が必要な範囲」と  
防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を  
5段階に区分して発表する指標






## 活動火山対策特別措置法

各火山に**火山防災協議会**を設置(地元自治体)  
平常時から噴火時の避難について検討  
「地域防災計画」の作成。避難開始時期・避難対象地域を設定  
警戒が必要な範囲、とるべき防災対応

## 噴火警戒レベルが運用されている火山

**火山防災協議会で合意された避難計画に基づいて対応**  
気象庁「警戒が必要な範囲」を明示。  
噴火警戒レベルを付して**噴火警報・予報**を発表  
市町村等の防災機関  
**入山規制や避難勧告等の防災対応をとる**

# 噴火警戒レベルの例(気象庁ホームページより)

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード		説明			
					火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応	
特別 警報	噴火警報 (居住地域)  又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	レベル5	避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。	
			レベル4	避難準備		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	
警報	噴火警報 (火口周辺)  又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで	レベル3	入山規制		居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制)。状況に応じて要配慮者の避難準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
		火口周辺	レベル2	火口周辺 規制		火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	レベル1	活火山である ことに留意		火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。		特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。

# 火山噴火予測研究の意義や今後について考える

## 1. 火山研究者、気象庁、自治体の取り組みの紹介

	自治体	気象庁	研究者
浅間山	長野県危機管理部 火山防災幹 南沢 修	気象研究所 火山研究部部長 山里 平	東京大学 地震研究所教授 武尾 実
阿蘇山	阿蘇市総務課 防災対策室係長 市原敏博	福岡管区气象台 火山活動評価官 松末伸一	京都大学 理学研究科教授 大倉敬宏
伊豆大島	東京都総務局総合防災部 計画調整担当課長 大村真人	気象研究所 火山研究部部長 山里 平氏	東京大学 地震研究所教授 森田裕一

## 2. パネルディスカッション

モデレーター 大倉敬宏・森田裕一

パネリスト 研究者 中川光弘(北海道大学理学研究院教授)  
中村洋一(宇都宮大学名誉教授)

西村太志

気象庁 山里 平

自治体 南沢 修